

札幌市立南の沢小学校の取組【雪に関する教育課程】

1. 研究のねらい

本校では、「大自然とともに生き」を教育目標として掲げ、冬季には「雪」を活かした活動（冬の滝野宿泊学習、スノーシューによる自然観察、生活科「ふゆをたのしもう」等）を積極的に実施している。これまで、4か年に渡って、「雪を通して北国札幌らしさを学ぶ」をテーマに、札幌らしい特色ある学校教育推進事業のうち、雪に関する教育課程研究実践校として、研究に取り組んできている。

2. 取組内容

(1) 「全校雪踏み」(全学年 学校行事)

3学期始業式の翌日の中休みに行う恒例の学校行事で、冬期間もグラウンドで遊びやすくするよう、グラウンドの雪を全校児童で踏みならず取組である。

スキーウェアを身にまとい、帽子、手袋、長靴で防寒対策を施した児童がグラウンドに出ると、担任の指示のもと、各学年が割り当たった場所に横一列に並び、腕や肩を組んで、雪を踏んで歩いていく。5分もすれば、深かった雪はきれいに踏み固められ、その後は、思い思いに雪合戦や雪だるま作り、鬼ごっこ等の遊びを始め、児童の歓声がグラウンド一杯に響き渡った。



(2) 「冬をもっと楽しもう～イグルー作り～」(2年 生活科 4時間扱い)

2年生は、昨年度1年生の生活科「ふゆをたのしもう」の学習で、保護者参加型授業「スノーフェスティバル」を行い、親子チューブリレーや雪だるま作りを楽しんだ。また、担任の指導のもと、屋根なしの「イグルー」を作った。

今年度は、それらの活動の経験を活かし、更に発展させた取組として、札幌市環境教育リーダーの派遣をお願いし、「イグルー作り」を行った。

まず、事前に絵本『雪の結晶ノート』の読み聞かせを行った。そして、雪に対する興味・関心を膨らませた児童にイグルーを作ることを伝えた。

当日は、ゲストティーチャーとして8名の環境教育リーダー（札幌市環境プラザの事業にお越しいただいた）。

イグルー作りの道具や手順、注意事項を説明いただいた後、リーダーの皆さんによる直径1.5mほどの小さなイグルー作りのデモンストレーションが行われた。リーダーは、手際よく雪のブロックを運び、煉瓦状に組み上げ、ものの10分ほどで1人が入れるくらいの小型のイグルーが完成した。



それをお手本に11～12名ずつのグループに分かれ、小型イグルー作りに取り組んだ。

はじめに、リーダーが直方体に切り出した雪のブロック



を運び、サークル状に並べていく。このとき、専用ののこぎりで両側面を斜めにカットすることで、ブロックを円く並べやすい形にする。

そして、2段目を積む前に、1段目の上面を内側に向けて斜めにカットする。こうすることでイグルーの側面が弧を描くように積み上がっていく。1名の児童



が中に入り、内側から支える役目を担った。コンテナで雪を固める子、ブロックを運ぶ子、カットする子、積み上げる子、隙間を埋める子、中で支える子など。個々の児童が役割を全う

し、3段目、4段目を積み上げた。

最後に、リーダーがのこぎりで出入口を開けると、中で支えていた子が這い出し、小型イグルーは完成した。

その後、各グループでもう一つずつ小型のイグルーを作り、開始から2時間後、グラウンドにはちょっとしたイグルーの町が出来上がった。雪がちらつく氷点下の中で、子どもたちの満足気な笑顔が温かく輝いていた。



3. 成果と課題

(1) 成果

「全校雪踏み」は、雪に親しむシーズン到来を児童に実感させる行事としても位置付けており、冬期間もグラウンドで遊ぶ児童が比較的多い要因となっていると捉える。

「イグルー作り」は、環境教育リーダーの方々から、作り方の手順やコツを分かりやすく教えていただきながらの活動であったため、雪遊びの楽しさを十分に満喫できるものとなった。

また、立派なイグルーを仲間と力を合わせて作り上げた達成感、満足感を味わうこともできた。

活動後は、環境リーダーの皆さんに御礼状を書くことで振り返りを行った。



- ・さいしょは、くずれちゃうかと思ったけど、みんなでがんばったらできました。
- ・のこぎりで雪を切ったことが一ばん心にのこりました。
- ・切るのもすきまをつめるのもおもしろかったです。

(2) 課題



このほか、常備された100足のスノーシューを利用した「光風園の冬」(4年)、「冬の滝野宿泊学習」(5年)、「ふゆをたのしもう」(1年)、「雪積み大会」(児童集会)など、本校ならではの「雪」の活動に取り組んできた。

今後は、これら雪に関わる活動についての全体計画を更に見直し、マンネリ化に陥らないよう、各活動を工夫・改善することを課題として、より実りある活動を推進していきたい。